

最後の大会

6月3日（金）に、中体連大会選手激励会が開かれました。大会に出場する選手と2・3年生が体育館に入りました。体育館には凜（りん）とした雰囲気（ただよ）い、どの部も立派な態度で臨（のぞ）んでいました。もう少しコロナの状況が収まったら、体育館に全校生が集（つど）う機会を設（もう）けたいと思います。今日のような2・3年生の姿をぜひ1年生にも見せたいのです。

激励会では何人もの生徒がマイクの前に立ちました。その中から2人の内容を紹介します。

* 凜とした 態度や様子などが引き締まっていて、りりしいこと。

私たちは、6月21日に柏葉体育館で試合をしてきます。自分たちは部活がない分、スポ少の方で練習してきました。前は、東北、全国大会の出場を逃してしまい、とても悔しい思いをしたのを今も覚えています。今回は、しっかり結果を残せるよう焦らず心身共にベストコンディションで試合に臨みたいと思います。

また、野田中生としての態度や柔道家として礼儀作法をしっかりと、大会を開いてくださった大会関係者の方々、送迎してくださった保護者さん、そして練習の相手になってくれた仲間、スポ少の人たち、大会で試合をしてくれる相手選手に感謝を忘れず、優勝目指して頑張ってきます。応援よろしくお願いします。

（特設柔道部 3年3組 結城風香さん）

今日は僕たちのために、このような会を開いていただきありがとうございます。

今から2年前、僕たち3年生がまだ1年生だった時のことです。そのときは、ちょうど新型コロナウイルスで今までとはちがう慣れない生活を強（し）いられていました。その年の中体連大会は行われませんでした。大半の部活の3年生が最後の大会だったのですが、行われることはなく終わってしまいました。負けるでも勝つでもなく、何もしないまま終わる。それ以上悔しいことはなかったと思います。

だからこそ、自分たちがこの中体連大会に出られること、それはとても幸せなことだと感じています。そして、応援してくれているみなさん、今まで指導してくださった先生方、支えてくれた親に感謝の気持ちを忘れず、全力で挑（いど）んでこようと思います。応援よろしくお願いします。

（男子卓球部 3年3組 中嶋謙心君）

支部中体連大会に出場した3年生にとって、今回の大会は、自分の中でどんな位置づけだったのでしょうか。きっと特別なものだったはず。心に残るものになったはず。いつまでも大切にしてください。